

回 答 書

I 医療・介護・高齢者福祉の充実について

1. 旧アップルランド跡地から南へ約 700mの位置にスーパー「ツルヤ」の出店が決まりました。又、池田町商工会では毎週金曜日に開催しています「晴れるや市」も継続していただける予定です。社会資本総合整備事業においてスペースゼロ周辺的环境整備についても商工会を中心に検討を重ね、町中の賑わい創出に努めてまいります。
2. 現在「介護予防日常生活総合事業」のメニューを北アルプス広域連合で作成中です。また、人材育成につきましては、社会福祉協議会に開催要望を伝えてあります。
3. 平成28年度当初予算に特例障がい者手当・障がい児福祉手当受給者25名と要介護4・5 63名 合計88名分に年間5万円の介護給付金を支給する様4,400千円を計上しました。
4. 現行通りで予算編成をしております。
5. 料金設定については「池田町福祉有償運送運営協議会」で認定された金額となっておりますので、安易には変更はできません。
6. 制度化の可否については、「介護予防日常生活総合事業」の中で検討していきます。
7. 既に県が国に対し同様の要望を上げてあります。

II 子育て支援の充実について

1. 地域交流センターにつきましては、現在基本設計の段階ですが、基本構想、ワークショップの中でのご意見、ご要望を頂き、施設内には「親子交流室」を設けることとしています。また、図書館の利用やロビースペースも有効に活用できるようにします。
2. 社総交事業の中で検討します。

3. 当面は、他の公共施設を利用し対応してまいります。
4. 松川村のみならず広域的に取り組む必要性を感じておりますので、今後の検討課題と考えております。
5. 今後の実施計画策定時に検討します。
6. 会染保育園建設検討委員会より「防災等に配慮した場所へ、新築により整備（抜粋）」との答申をいただいておりますので、検討します。
7. 池田町の就学支援の内容は、近隣市町村の中では水準以上と考えます。本年度の予算ベースではありますが、新入学学用品、学用品、修学旅行費、給食費の援助として、年間で約780万円となっています。現在の援助項目を変更する予定はありません。

Ⅲ 防災対策の充実について

1. 地域防災計画を基に災害対応マニュアルを策定しておりますが、更なる防災対策に必要なものにつきましても安心・安全なまちづくりを基本として手立ての充実に努めます。
2. 開催に向けて検討いたします。
3. 自主防災会で対応可能か協議し、検討いたします。
4. 自主防災組織活動の充実に向けて努力いたします。
5. 検討いたします。

Ⅳ 町の資源を活かした農林業・産業振興について

1. TPPに対する国の具体的な施策が示されて来ない状況です。今後池田町のおいしい米づくりを維持して行くためには、米のブランド化等は必要であると認識しています。農協、生産者等との話し合いを行い、今後検討します。

2. 町では、営農支援センターが中心となり、農地の担い手農家・集落営農組合への集積を推進しています。今後有機・無農薬農業推進区域についても農業者との話し合いを進め検討をして行きたいと考えます。
3. 遊休農地対策も含め、人口増対策のためにも新規就農者の受入体制の構築について検討をさせていただきます。又、観光農業の体験ツアーについても併せて体制の検討を行ってまいります。
4. 検討します。
5. 池田町の森林整備については、引き続き各協議会を中心に整備に努めてまいります。森林セラピーについては、ハーブとの関係を持たせた中で今後検討をして行きたいと考えます。
6. ハーブ園リニューアルに併せた中で、専門家の育成又資格者の育成が重要と考えますので、検討をさせていただきます。
7. 現在、考えておりません。
8. 検討いたします。
9. 自然エネルギーの活用は、国も含めて推奨しております。推進に向けて努力いたします。

V 町づくりについて

1. 現在、考えておりません。
2. 地域おこし協力隊員の活用と採用を検討します。
3. 現在設置されているあづみ野池田クラフトパーク運営協議会、クラフトパーク連絡会で検討いたします。また、クラフトパーク応援団の再構築により検討頂き、更にはワークショップを予定しています。
4. この度の社会資本総合整備計画におきまして、文化財管理施設として整備することになっています。

5. 関係部署との連携を図る中で、特定空き家等の所有者に対し、助言・指導等を行ってまいります。
6. ごみ集積所は自治会所有物であり、規格の統一等は考えておりません。
7. 今後、大型事業が増加することから町費補助の増額については、難しい状況です。国の新しい制度を注視し、情報提供したいと考えます。
8. 町民活動サポートセンターに相談します。
9. 今回の地域交流センターの建設につきましては、既存施設の建て替えのみではなく、新たな施設として「子どもからお年寄りまで気軽に集い、楽しみ、くつろぐ居場所」とし、町なかの再生、賑わいにも寄与することを目的としています。現在、目標に向けてのソフト事業の検討を進めております。